

a 学校教育目標	夢大きく心豊かな児童の育成 ～知・徳・体 キラリと光る三つ巴っ子～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 地域を愛し、確かな学力と豊かな心を持ち心身共に健康な子どもを育成し、地域・保護者から信頼される学校
----------	--------------------------------------	----------------------	--

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント	
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ		
確かな学力	すすんで学び、よく考え豊かに表現する力を育てる。	◎誰もが学ぶ喜びを感じる、主体的で対話的な学びの創造 ★論理的思考力・コミュニケーション能力育成の場の設定	○既習事項と関連づけ、児童が主体的に考えるための課題設定の工夫 ○児童の発言を引き出す、教師のファシリテート力の向上 ○一人1回以上の研究授業による、授業改善	○授業が楽しいと感じている児童の割合(%) ○学ぶことで自分が変容していると感じている児童の割合(%)	90 80	90.7% 92.8%	90.2% 91.5%	100.2% 114.3%	A	○両項目において、達成することができた。「発表するのが楽しい」、「知らないことを知れて楽しい」、「分からないところが分かるようになって嬉しい、自分が成長したと思う」などの意見があった。しかし、授業内での見取りと手立てが不十分であったため、授業の中で満足できていない児童が9.8%いた。	○「分からない」と答えた児童には、個に応じて、スモールステップで既習事項を想起させたり問題を解決させたりして、「できる」経験の積み重ね。 ○振り返りのゴールイメージを明確にし、そのためにどのような流れや発問が必要か考え、児童同士が考えを深められるよう教師のファシリテート力を高める研修の充実。	○			・CDTを評価項目に入れているが、三原市の施策としてNRTに取り組んでいるので、NRTを評価項目に入れ、同一集団として結果を見取った方がよいのではないかと。 ・シャッフル読み語りはとてもよい取組だと思う。今後も継続してほしい。 ・各学年の定着できてない単元はどこなのか。4年生では、2けた÷2けた、3けた÷2けたの割算、6年生においては、拡大図・縮図、角柱の体積、円の面積など図形に関する単元について取組が必要である。
		◎基礎・基本の学力向上 ★学力テスト等目標値達成率の向上（国語科・算数科）	○学期末テスト、CDTの結果を分析し、重点課題を明らかにした授業改善 ○三つ巴っ子タイムの充実	○学期末テスト80点以上の児童の割合(%) ○CDT学力テストの結果	80 全国平均以上	国語科 76.0% 算数科 77.4%	国語科 83.4% 算数科 70.4%	国語科 104.3% 算数科 88%	B	○国語科においては、目標を達成した。算数科においては、低学年は、98.6%とほぼ目標達成に近いが、高学年は、77.3%であった。その単元を学習している際は理解しているも、時間の経過とともに忘れていることもあり確実な定着に至っていない。 ○語句の理解を深めるために熟語作りゲームや読書喚起を行うため担任シャッフル読み聞かせ、自然と教え合いを行いコミュニケーション能力を高める折り紙など、ドリルタイムの充実に取り組んだ。(CDT学力テスト1月実施 結果2月下旬分析)	○系統性を意識した単元構想や授業の実施。 ○三つ巴っ子タイムにおいて、復習等で学力の定着を図るとともに、認知能力や語彙力の向上など学びの基盤となる力を高める内容の充実と取組の充実。		○		・全児童の学力向上に向け、授業づくりをはじめ、三つ巴っ子タイム等で等での取組を全教職員で進められており、すばらしいです。今後とも、算数科をはじめ基礎学力の確実な定着を求め、しっかりと鍛え上げてください。 ・中学校に向け、自主的に自ら求めて学習を行うこと、特に高学年の児童には、家庭での学習習慣の定着や効果的な学習方法の習得に向けた指導をお願いしたい。
豊かな心	地域を愛する心をもつとともに、夢や目標をかなえるための生活習慣を身に付けさせる。	◎コミュニティースクールの導入にむけた、地域(人・もの)を活用した学習の推進 ★GT招聘、地域学習の推進 ★周りの人への感謝の気持ちを表現する児童の育成	○地域ゲストティーチャーや読書ボランティアなど外部人材を積極的に活用 ○各教科、道徳の時間、総合的な学習の時間などにおける、地域学習の充実 ○学校内外の人と積極的に関わり、感謝の気持ちを伝える活動の充実	地域に貢献できていると感じている児童の割合(%)	60	89	89	148%	A	○年度当初の目標を達成することができた。各学年において、総合的な学習の時間や生活科の学習で地域の方と直接かかわる機会を多くもつことができたことがよかった。 ○地域の方に向けて手紙で感謝の気持ちを伝えたり、音楽発表会で頑張っている姿を見ていただいたりすることができた。	○ゲストティーチャーの積極的招聘。 ○学校内外の人と積極的に関わり、感謝の気持ちを伝える活動の継続。 ○学級活動の話し合いを通して児童が自己決定したと実感する取組の実施。 ○来年度のコミュニティースクール導入に向けて、地域の方との連携の充実。	○			・「地域に貢献できている」は質問項目として、曖昧だと思う。読んで理解できるよう、各学年に応じた質問項目にする必要がある。 ・「地域の方に対して挨拶をする、横断歩道で止まってくれた車に礼をする」などの行動も地域貢献にあたることを児童にも伝えてほしい。 ・いじめ、不登校状況はアンケートや日々の生活の中で把握し、児童間で起きたトラブルについてしっかりと話を聞き、家庭との連携を図っている。
		◎児童の自己肯定感、自己有用感を醸成する取組の推進 ★HyperQ-Uにおける学級満足群の児童の割合の向上	○支持的風土の学級経営 ○家庭との連携 ○ふれあい相談室、SC、SSWなどの人材活用による、組織で児童を支援する仕組みづくり	HyperQ-Uにおける学級満足群の児童の割合(%)	80	73	79	98%	B	○今回は、10月に実施したHyperQ-Uの結果である。全校平均では目標値を概ね達成したが、各学級によって満足群を占める児童の割合の差がある。 ○日々の生活はもちろん、音楽発表会やマラソン大会で一人ひとりが目標に向けて活動したり、頑張りを認め合ったりすることで、支持的風土を醸成することができた。 ○一部の児童は、学校ふれあい相談室、SC、SSW等の繋がりをもっているが、担任や関係する教員で連携を取り切れないことがあった。	○学級内のルール作りや児童の主体的な学級会活動など、児童の安心感と自己有用感を醸成する取組の実施。 ○三原市教育委員会及びこども安心課、福祉団体や医療機関等、外部との連携を図った取組の充実。	○			・コロナ禍が落ち着き、外部の指導者等とのかかわりが復活し、諸活動が実施できていることは喜ばしいこと。これから、先頭を切って実施される「コミュニティ・スクール」の取組に注目している。
健やかな体	体力を高め、食に対する高い意識を育てる。	○基礎体力の向上 ★鉄棒・縄跳びの推進	○体育科授業の工夫と改善 ○鉄棒・なわとびカードの活用	○二重跳びを1回以上跳べる児童の割合(%) ○逆上がりのできる児童の割合(%)	60	二重跳び 69.9% 逆上がり 57.7%	二重跳び 61.0% 逆上がり 49.0%	二重跳び 101.6% 逆上がり 81.6%	B	○計測期間が、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染者の多い時期と重なり、児童の体力の低下、計測の困難さが2月の達成値が低下していた原因と考えられる。継続した取組が必要である。 ○全校一律の目標に挑戦したことで低学年については難しい課題となった。改めて来年度は、発達段階に応じた適切な目標設定をする必要がある。	○体力や技能の向上を図るための、継続目標カードの記入やICTを活用した技能の習得等の日常の取組、体力づくり集会の運営の充実。 ○児童の発達段階に応じた目標を設定。	○			・基礎体力の向上に向けた目標は、全学年統一でよいのか。来年度は学年に応じた具体的な策を今年度のうちに考えること。また、できなかった児童へフォローすることも必要である。 ・縄跳びをすることでどのような力がつくのか。ただ二重跳びすることを目指すのではなく、1分間で○回連続で○回跳ぶなど、体力の向上に向けた目標にするのもよい。
		◎食育の推進・基礎的な生活習慣の確立 ★早寝、早起き、朝ごはんの推進	○食育指導・保護者啓発活動の実施 ○集中取組期間の実施	○集中取組期間に早寝・早起き・朝ごはんに取り組めた児童の割合(%) ○集中取組期間に自分が決めた量を食べきる児童の割合(%)	80 90	72.6% 94%	60.6% 96.7%	75% 107%	C A	○朝ごはんは全員が摂取していたが、早起きの数値が低い学年に朝ごはんをバランスよく食べることができていない傾向が見られた。 ○集中取組期間に自分が決めた量を完食することができた児童は、9割以上だった。この要因として、後期に栄養教諭による食育の授業を高学年に行ったことや、取組期間の運営を保健委員会の児童に取り組ませたことが考えられる。	○養護教諭を中心に保健指導の充実。 ○食の大切さを児童が自分事として考えられるよう保健委員会の取組を充実。 ○栄養教諭と連携を図り、食育授業を継続。		○		・家庭での取組が主となる事項については、学校としての取組手段に限られるため、学校評価の項目としては適していない。来年度もするのであれば、PTAからもお願いしてもらえなど協力を要請してはどうか。 ・性教育は早い段階から、取り組んでほしい。 保健の授業で自分の体についてや第二次性徴期に関することは、指導している。
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに、15年間を見据えた教育を行う。	◎情報を公開し、説明責任を果たし、満足度向上 ★月1回以上、学校だより・学年・学級だよりの発行	○学年・学級通信、学校だより、メール配信システムやホームページでの情報発信 ○学級懇談会、個人懇談会をとおして説明責任を果たす。	保護者へのアンケートによる情報発信への満足度の割合(%)	90	94%	96%	107%	A	○学年・学校だより、ホームページ共に計画的に発行、更新することができた。また、それぞれの担当が、写真や児童の言葉を入れるなど、学校の様子が分かるように工夫することができた。メール配信システムを活用し、タイムリーな情報発信をすることができた。 ○学級懇談会・個人懇談会とも計画的に行い、学級や個人の様子を説明することができた。	○学校の取組や児童の様子が分かるよう、各種通信やホームページの内容の充実。 ○学級懇談会への参加率の向上を図るため内容の充実。 ○個人懇談会、必要に応じた保護者連携の継続。	○			・来年度からコミュニティースクールの先進導入校になるので学校、地域、保護者の関係をより強固なものにしていってほしい。 ・本郷芸能フェスティバルの児童の発表を聞いて地域の者として元気をもらった。これからも地域貢献としていろんな場で児童たちの活躍する姿を見たい。
		○働き方改革 ★次世代の働き方への体制づくり	○時間外勤務の短縮 ○計画的な定時退校日の実施	時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100	100%	100%	100%	A	○年度初めの目標を100%達成することができた。始業終業時刻、定時退校日を明確にすることで、全教職員が目標を意識し、見通しをもって職務を遂行することができた。	○教科書変更やコミュニティースクールの導入による、さらなる働き方改革の推進と見通しを持った職務の遂行と業務の精選。	○			・働き方に対する教職員の意識も醸成されてきており、在校時間の縮減にもつながっている。学校経営のすばらしさの現れだと思う。

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価 評価】

A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

【l:学校関係者評価 評価】

イ:自己評価は適正である。 ロ:わからない。
ハ:自己評価は適正でない。